

オンラインシラバス 高校2年生 インターナショナルコース(SG)

SG 文系・論理国語	2
SG 文系・古典研究	3
SG 理系・現代文Ⅰ	4
SG 理系・古典Ⅰ	5
SG 世界史研究	6
SG 日本史研究	7
SG 地理総合	8
SG 公共	9
SG 文系・数学Ⅱ	10
SG 文系 数学B	11
SG 理系・数学Ⅱ	12
SG 理系・数学B	13
SG 化学	14
物理基礎	15
SG 生物基礎	16
地学基礎	17
SG 英語コミュニケーションⅡ	18
SG 論理・表現Ⅱ	19

教科	科目	コース	授業時間	担当者
国語	論理国語	SG・文系	3	宮田

到達目標

- ・様々な学問分野の論説文に触れることでその論理を理解する力を養う。
- ・論理的に文章を書く力を養う。
- ・漢字や語彙など、読解の基礎となる知識を蓄える。
- ・問題演習を通じて様々なパターンの設問形式に習熟する。
- ・読書を通じて深い教養を養う。

授業の進め方・学習方法

- ・文章の論理構造を読み解くことを目的とした指導をおこなう。
- ・読み取ったことを正確に表現するための記述指導をおこなう。
- ・知識領域の定着をはかるための小テストを適宜実施する。
- ・問題演習は、得点するための解法について徹底的に確認していく。
- ・課題図書を選定しその内容理解を問う。

解説と読解を中心に進め、適宜問題演習を行うことで理解・考察を深めます。
現代文学習における読解力、理解力、知識力をバランスよく鍛えることを意識して授業に臨んでください。

授業スケジュール

1学期	「物語るという欲望」 「ファンションの現象学」	1学期中間試験
1学期	「変貌する聖女」 「貧困は自己責任なのか」 「桜が創った『日本』」	1学期期末試験
2学期	「現代日本の開化」 「ファンタジー・ワールドの誕生」	2学期中間試験
2学期	「虚ろなまなざし」 「つながりと秩序」 【演習】論理的文章	2学期期末試験
3学期	【演習】大学入試過去問	学年末試験

成績評価方法

種別	割合(%)	評価基準など
定期試験	80	定期試験を80%の評価対象とし、残り20%を小テストや授業内の取り組みなどで評価する。
レポート	0~20	
小テストなど	0~20	
授業での取り組み	0~20	

教科書・教材

書名	出版社	備考
論理国語	筑摩書房	

参考書

書名	著者	出版社	備考

担当者からのアドバイス

小説や評論に限らず、とにかく文章をよく読み込み、内容を正しく理解することがまずは重要です。そして、それを自分の言葉で表現できることが望されます。正しいスタイルを身に付けられるようにしていくので、まずは「受け入れる心」をお持ちください。

教科	科目	コース	授業時間	担当者
国語	古典 I	SG・文系	3	小森

到達目標

- ①大学入試を見据えながら、それぞれの志望校に必要な知識や読解力を習得する。
②古典文学作品を通し、日本文学や文化に対する幅広い教養を身につける。

授業の進め方・学習方法

予習として単語や文法事項を調べ、現代語訳を作成してください。わからなかった部分を解決するという姿勢で授業に臨みましょう。

授業中は「古文单語315」「体系古典文法」「漢文必携」を参照しながら進めるので、必ず手元に置いてください。

授業スケジュール

1学期	古文 教科書「若紫との出会い」(『源氏物語』) 漢文 教科書「沛公 項王に見ゆ」「焚噲目を瞋らして項王を視る」(『史記』「項羽本紀」)
	1学期中間試験
1学期	古文 教科書「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」 漢文 教科書「四面楚歌す」(『史記』「項羽本紀」)
	1学期期末試験
2学期	古文 教科書「嘆きつつ」「鷹を放つ」(『蜻蛉日記』)「日本紀の御局」(『紫式部日記』) 漢文 教科書「我 何の面目ありて之に見えん」(『史記』「項羽本紀」)
	2学期中間試験
2学期	古文 教科書「兼通と兼家の確執」「南院の競射」(『大鏡』) 漢文 教科書「不忍人之心」(『孟子』)「人之性惡」(『莊子』)
	2学期期末試験
3学期	古文 大学入試問題演習 漢文 漢文読解演習
	学年末試験

成績評価方法

種別	割合(%)	評価基準など
定期試験	80	定期試験の結果を中心に、授業への取り組みや小テスト・課題テストの結果などを加味して絶対評価で行う。
レポート		
小テストなど	0~20	
授業での取り組み	0~20	

教科書・教材

書名	出版社	備考
古典探究 古文編	大修館書店	
古典探究 漢文編	大修館書店	
体系古典文法	数研出版	
重要古文单語315	桐原書店	
漢文必携	桐原書店	

参考書

書名	著者	出版社	備考

担当者からのアドバイス

知識・文法だけにとらわれずに多角的な視野で文学を楽しんで欲しいと思います。
高等教育を受けたと言えるだけの教養を身について社会に出ていけるようにしましょう。
また分からることはすぐに質問して解決するいい習慣を身についてください。

教科	科目	コース	授業時間	担当者
国語	現代文 I	SG・理系	2	宮田

到達目標

- ・様々な学問分野の論説文に触ることでその論理を理解する力を養う。
- ・漢字や語彙など、読解の基礎となる知識を蓄える。
- ・問題演習を通じて様々なパターンの設問形式に習熟する。
- ・読書を通じて深い教養を養う。

授業の進め方・学習方法

・文章の論理構造を読み解くことを目的とした指導をおこなう。・読み取ったことを正確に表現するための記述指導をおこなう。・知識領域の定着をはかるための小テストを適宜実施する。・問題演習は、得点するための解法について徹底的に確認していく。・課題図書を選定しその内容理解を問う。解説と読解を中心に進め、適宜問題演習を行うことで理解・考察を深めます。現代文学習における読解力、理解力、知識力をバランスよく鍛えることを意識して授業に臨んでください。

授業スケジュール

1学期	「空気を読む」 「『個人』から『分人』へ」	1学期中間試験
1学期期末試験		
1学期	「変貌する聖女」 「貧困は自己責任なのか」	
2学期中間試験		
2学期	「現代日本の開化」 「ファンタジー・ワールドの誕生」	
2学期期末試験		
2学期	「虚ろなまなざし」 「つながりと秩序」 【演習】論理的文章	
3学期		
3学期	【演習】大学入試過去問	
学年末試験		

成績評価方法

種別	割合(%)	評価基準など
定期試験	80	定期試験を80%の評価対象とし、残り20%を小テストや授業内の取り組みなどで評価する。
レポート	0~20	
小テストなど	0~20	
授業での取り組み	0~20	

教科書・教材

書名	出版社	備考
現代の国語	大修館書店	

参考書

書名	著者	出版社	備考

担当者からのアドバイス

小説や評論に限らず、とにかく文章をよく読み込み、内容を正しく理解することがまずは重要です。そして、それを自分の言葉で表現できることが望まれます。正しいスタイルを身に付けられるようにしていくので、まずは「受け入れる心」をお持ちください。

教科	科目	コース	授業時間	担当者
国語	古典 I	SG・理系	2	高橋

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> ・古典作品を通して教養を広げ、様々な価値観や考え方を身につける ・表現の豊かさを味わい、その表現の機微を敏感に捉える力を育成する。 ・古文漢文の基本的な知識を確認しながら大学入試で必要な力を積み重ねる。

授業の進め方・学習方法
<ul style="list-style-type: none"> ・授業では単語帳や参考書を使いながら読み進めます。 ・小テストや課題を行いますので計画的に進めてください。 ・必要に応じてプリントを配付します。

授業スケジュール	
1学期	<p>【古文】枕草子「宮に初めて参りたるところ」など 【漢文】「先従隣始」など 【小テスト】古文単語315／漢文必携／配付プリント 【課題】基礎が身につく古典(乙会)</p>
1学期中間試験	
1学期	<p>【古文】和泉式部日記「夢よりはかなき世の中を」など 【漢文】「江南橋為江北枳」など 【小テスト】古文単語315／漢文必携／配付プリント 【課題】基礎が身につく古典(乙会)</p>
1学期期末試験	
2学期	<p>【古文】源氏物語「朧月夜との出会い」など 【漢文】「臥薪嘗胆」など 【小テスト】古文単語315／漢文必携／配付プリント 【課題】基礎が身につく古典(乙会)</p>
2学期中間試験	
2学期	<p>【古文】大鏡「道真左遷」など 【漢文】「鴻門の会」など 【小テスト】古文単語315／漢文必携／配付プリント 【課題】基礎が身につく古典(乙会)</p>
2学期期末試験	
3学期	<p>【古文】源氏物語「恩賜の御衣」など 【漢文】「三横」など 【小テスト】古文単語315／漢文必携 【課題】基礎が身につく古典(乙会)</p>
学年末試験	

成績評価方法		
種別	割合(%)	評価基準など
定期試験	80	定期試験を中心に他活動の評価を加味して成績を決定します。
レポート	~20	
小テストなど	~20	
授業での取り組み	~20	

教科書・教材			
書名	出版社	備考	
基礎が身につく古典 レベル2	乙会		
体系古典文法	桐原書店		
漢文必携	桐原書店		
古文単語315	桐原書店		

参考書			
書名	著者	出版社	備考

担当者からのアドバイス			
古典という作品を読み、楽しんでもらいたいと思います。週2という限られた時間ですが、その中でも受験に向けての実力を養っていきましょう。			

教科	科目	コース	授業時間	担当者
地理歴史	世界史探究	SG	4	沖

到達目標
H2中に大学入学共通テストレベルの実力につけるのはもちろん、難関私大・国立2次試験(論述)にも対応できる知識・実力へ仕上げていく。
[中期] H1で学習した内容を踏まえて、模擬テスト等で得点できる実力を養う。 [長期] 世界史の通史を学習し、受験に対応できる知識を身につける。単なる知識の暗記にとどまらず、移り変わる世界の様子を少しでも読み解ける「教養科目」としての世界史意識を持たせる。

授業の進め方・学習方法
各事項のイメージを具体化し、それらを要点整理ノートに書き込むこと。ただ板書を描き写すのではなく、感想等メモの多いオリジナルノートを期待する。
地域ごと(ヨーロッパ・アジア・アメリカ等)の通史を通じて、各国の歴史・文化・他国との関係を理解していく。原則として講義の形式をとる。知識を問う分野と関心を高める分野を整理しながら授業を展開し、受験レベルとして必要な内容を身につけていく。 【講義】を受けたのち、適度な【演習】を繰り返すことで知識は定着する。決して受講したままにしない心がけが必要となる

授業スケジュール	
1学期	<ul style="list-style-type: none"> ● 古代オリエント世界 <ul style="list-style-type: none"> 1) メソポタミア 2) エジプト 3) 地中海東岸の諸民族 ● 古代ギリシア・ローマ世界 <ul style="list-style-type: none"> 1) 古代ギリシア世界の形成 2) ヘレニズム世界の形成
1学期中間試験	
1学期	<ul style="list-style-type: none"> 3) 古代ローマ世界の形成 4) ローマ帝国の繁栄と衰退 ● 古代インド・東南アジア世界 <ul style="list-style-type: none"> 1) 古代インド世界の形成 2) 古代東南アジア世界の形成
1学期期末試験	
2学期	<ul style="list-style-type: none"> ● 中華文明の形成 <ul style="list-style-type: none"> 1) 中国文明の発祥 2) 秦・漢中華帝国の形成 3) 魏晉南北朝～隋へ 4) 隋唐帝国と東アジア世界の発展
2学期中間試験	
2学期	<ul style="list-style-type: none"> 5) 宋と北方民族 6) モンゴル・元とユーラシア世界 ● イスラム世界の成立と発展 <ul style="list-style-type: none"> 1) イスラム世界の成立 2) イスラム世界の変遷① 3) イスラム世界の変遷② 補) イスラム文化史 ● 西欧世界の形成と発展 <ul style="list-style-type: none"> 1) 西ヨーロッパ世界の成立 2) 西ヨーロッパ世界概略史
2学期期末試験	
3学期	<ul style="list-style-type: none"> ● 西欧世界の形成と発展 <ul style="list-style-type: none"> 3) ノルマン人の侵入と封建社会 4) 十字軍と教皇権の衰退 5) 中世ヨーロッパ諸国家の変遷 6) 中世都市の成立と封建社会の崩壊 7) ビザンツ帝国と東ヨーロッパ世界 8) 中世ヨーロッパの文化 (● 近代の成立) <ul style="list-style-type: none"> 1) ルネサンスと大航海時代
学年末試験	

成績評価方法		
種別	割合(%)	評価基準など
定期試験	80	
レポート	0~20	
小テストなど	0~20	
授業での取り組み	0~20	

定期試験の得点を基準として、日々のテストや課題の提出・内容を評価点として加算する。なお授業中の取り組みは、小テスト同様に平常点に加算する

教科書・教材			
書名	著者	出版社	備考
世界史B		東京書籍	世B308

参考書			
書名	著者	出版社	備考

担当者からのアドバイス			
<p>世界史という「教養」を身に着けるために最も重要なことは歴史を「理解する」ことです。「理解する」とは、歴史用語をINPUT(知る)前提はもちろんですが、その用語1つ1つをつなぎ合わせ、大きな流れ(もしくは比較)を説明できることを言います。そして、理解を促す一番の方法は、とにかくあきらめず、最後まで考え方を抜く姿勢です。史観は人それぞれので思考や、本人が導き出す結論は違うかもしれませんのが、厳密な史料批判に基づく現代の史実を授業の場を通して皆さんに紹介、そして共有、議論していきたいと思います。グローバル社会にしっかり向き合い、日本人として国内だけではなく、国を超えて世界全体に貢献しようとする意識が持てるよう、共に考え抜く1年間でありましょう。世界史は社会で必ず役に立つ「一般教養」科目です。多くのことを学生時代に知って、肌で世界を感じて下さい。</p>			

教科	科目	コース	授業時間	担当者
地理歴史	日本史探究	SG	4	表

到達目標

- 原始から近世にいたるまでの流れをつかみ、政治史・文化史・外交史・社会経済史の重要な知識の習得をはかる。
- 共通テストレベルの基礎学力の定着と、難関国公立・私立レベル以上の入試に対応できる応用力・記述力の養成をはかる。

授業の進め方・学習方法

- 教科書を大切に、基礎基本の理解力の育成と同時に入試頻出テーマを確認しながら、実践的な授業を展開していきます。
- 資料集を使い、写真や史料など必要な知識を確認していきます。
- 重要事項の確認テストを実施します。

授業スケジュール

1学期	第1部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 1 文化の始まり 2 農耕社会の成立 第2章 古墳とヤマト政権 1 古墳文化の展開 2 飞鳥の朝廷	1学期中間試験
	第3章 律令国家の形成 1 律令国家への道 2 平城京の時代 3 律令国家の文化 4 律令国家の変容 第4章 貴族政治の展開 1 摂關政治 2 国風文化 3 地方政治の展開と武士	1学期期末試験
2学期中間試験		
2学期	第2部 中世 第5章 院政と武士の躍進 1 院政の始まり 2 院政と平氏政権 第6章 武家政権の成立 1 鎌倉幕府の成立 2 武士の社会 3 モンゴル襲来と幕府の衰退 4 鎌倉文化	2学期中間試験
	第7章 武家社会の成長 1 室町幕府の成立 2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化 4 戦国大名の登場 第8章 近世 1 織豊政権 2 桃山文化	2学期期末試験
3学期	第9章 幕藩体制の成立と展開 1 幕藩体制の成立 2 幕藩社会の構造 3 幕政の安定 4 経済の発展 5 元禄文化	学年末試験

成績評価方法

種別	割合(%)	評価基準など
定期試験	80	定期試験の得点を基準として、小テストや課題の提出状況・提出課題の取り組み状況を平常点として加算します。
レポート	0~20	
小テストなど	0~20	
授業での取り組み	0~20	

教科書・教材

書名	出版社	備考
詳説日本史	山川出版社	
詳説日本史図録 第9版	山川出版社	

参考書

書名	著者	出版社	備考

担当者からのアドバイス

日本史探究では、政権担当者を意識して授業を受けてください。そして、復習としてその日の授業範囲について、教科書の精読を行ってください。復習は基礎知識の定着が実現できる唯一の手段であることを忘れずに、日々の復習を怠ることなくおこなってください。一緒に頑張っていきましょう。

教科	科目	コース	授業時間	担当者
地理歴史	地理総合	SG	2	釣田

到達目標

地球や地球上の地域についてのイメージをつかんだうえで、地理的思考力の土台を構築する。

授業の進め方・学習方法

プリントや問題集を用いて授業を行う。1学期に地球の姿や地球の全体像を捉え、2学期には地球上の各諸地域について理解を深めていきます。

3学期には、1学期と2学期で学習した地球の地域にまつわるさまざまな問題について考察し解決策を探っていきます。

授業スケジュール

授業スケジュール	
1学期	第1部 世界の諸地域の姿と地球的課題 第1章 地球儀や地図からとらえる現代世界 1節 地球上の位置と国家 1、地上の現象と地球上の位置 2、経度の違いと時差 3、球面と平面の世界 4、国家の領域と国境 第2章 人間生活を取り巻く環境 1節 人々の生活と地形 1、世界の大地形と人々の生活 2、山地・平地の地形と人々の生活 3、海岸の地形と人々の生活 4、氷河地形・カルスト地形・乾燥地形と人々の生活
1学期中間試験	
1学期	2節 人々の生活と気候 1、生活と気候のかかわり 2、熱帯の気候と人々の生活 3、乾燥帯の気候と人々の生活 4、温帯の気候と人々の生活 5、亜寒帯・寒帯の気候と人々の生活 3節 人々の生活と産業・文化 1、生活を支える世界の農業 2、生活を支える世界の工業
1学期期末試験	
2学期	第3章 世界の諸地域の生活・文化 1節 中国の生活・文化 2節 韓国の生活・文化 3節 東南アジアの生活・文化 4節 南アジアの生活・文化 5節 中央アジア・西アジア・北アフリカの生活・文化 6節 サハラ以南のアフリカの生活・文化
2学期中間試験	
2学期	7節 ヨーロッパの生活・文化 8節 ロシアの生活・文化 9節 アングロアメリカの生活・文化 10節 ラテンアメリカの生活・文化 11節 オーストラリアの生活・文化
2学期期末試験	
3学期	第4章 地球的課題と私たち 1節 複雑にからみ合う地球的課題 2節 世界の環境問題 3節 世界の資源・エネルギー問題 4節 世界の人口問題 5節 世界の食糧問題 6節 世界の都市・居住問題
学年末試験	

成績評価方法

種別	割合(%)	評価基準など
定期試験	80	
レポート	0~20	
小テストなど	0~20	
授業での取り組み	0~20	定期テストを中心に、授業内実施の小テスト、レポート、授業への取り組み状況を平常点として加味して評価する。

教科書・教材

書名	出版社	備考
新地理総合	帝国書院	
新詳高等地図	帝国書院	
新地理総合ノート(未定)	帝国書院	

参考書

書名	著者	出版社	備考

担当者からのアドバイス

地理は「今」を読み解く学問です。今、地球で起きているさまざまな現象には必ず理由があるはずです。「なぜ」そうなったのか。グローバルな視点で空間を学ぶことで世界で起きている事象のメカニズムを「理解」し、それを「説明」できるようになります。世界のあらゆる地域で日々引き起こされている現象に興味をもち、地球の未来を創りだしましょう。身についた地理の教養は、自らの知識を深めるにとどまらず、これから的人生を豊かにするはずです。

教科	科目	コース	授業時間	担当者
----	----	-----	------	-----

到達目標

- 1 青年期における自己形成をと人間としての在り方生き方について理解と思索を深めるとともに、自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
- 2 民主主義の本質に関する理解を深め、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解できるようになる。
- 3 多角的・多面的なものの見方を身につけるとともに、現代の諸課題について主体的に考察し、公正に判断できる力を養い、主権者としての自覚を深め、公共的な空間をつくる人格として必要な能力と態度を身につける
- 4 大学受験における政治経済、倫理、現代社会などの公民系科目や小論文などにおいて必要とされる基礎的知識、教養を身につける。

授業の進め方・学習方法

- 1 予習は特に必要ない。講義を真剣に聞き4、授業内で理解すること。分からることは自ら調べ、不明点を残さないようにしよう。
- 2 授業では講義だけでなく、グループ活動や意見を書かせる活動などをを行う。受動的な姿勢で授業を聞き流すのではなく、自ら授業に参加すること。
- 3 定期考査では、単純な知識問題だけでなく、思考力、記述力を養う問題を出題する。単なる暗記にとどまらず、自分で内容を語れるようにしていこう。定期試験では時事問題も出題する。日頃からニュースに関心を持つようになろう。
- 4 授業や長期休暇で課す課題やレポートは、自分自身の考え方や意見を表す機会となるため、しっかりと取り組むこと。
- 5 授業では、定期的にディベートを行う予定である。その準備と、4試合内容、および観戦内容は平常点で評価する。

授業スケジュール

1学期	第1編 公共の扉 第1章 公共的な空間をつくる私たち 第2章 公共的な空間における人間としての在り方生き方 第3章 公共的な空間における基本的原理	1学期中間試験	
	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち 第1章 法的な主体となる私たち 1 法や規範の意義と役割 2 契約と消費者の権利 3 司法参加の意義 第2章 政治的な主体となる私たち 4 政治参加と公正な世論の形成	1学期期末試験	
2学期		2学期中間試験	
2学期		13 経済のグローバル化 1 國際分業と国際貿易体制 2 國際收支と為替相場 3 経済のグローバル化と日本 4 地域的経済統合の動き 5 國際社会における貧困や格差 6 地球環境問題 7 資源エネルギー問題 8 國際社会のこれから	2学期期末試験
3学期		学年末試験	

成績評価方法

種別	割合(%)	評価基準など
定期試験	80	授業で学んだことを通じて、レポートを作成し、ディスカッションやプレゼンテーションを行っていく予定である。それらにより平常点の部分を評価する。
レポート	0~20	
小テストなど	0~20	
授業での取り組み	0~20	

教科書・教材

書名	出版社	備考
高等学校 公共	第一学習社	公共710

参考書

書名	著者	出版社	備考
用語集 現代社+政治経済 23年版		清水書院	

担当者からのアドバイス

公共は、身の回りの事象が多く、日々、新聞やテレビなどのニュースで取り上げられる内容も多い。そのため、いかに日常生活のなかでアンテナを張っているかが大切である。授業で学習した内容を、まさに『公共』と結び付けて、様々な興味を持ってほしいと考えている。関心を高めながら、受験レベルとしても使える深い知識を身につけてもらいたい。通常の授業を興味・関心を持って、積極的に参加することが最も重要。定期テストは「授業」を中心に出題するが、教科書や資料集も必要に応じて学習の指示をする。

教科	科目	コース	授業時間	担当者
数学	数学Ⅱ	SG・文系	4	高橋・田中

到達目標

数学により表現された言語や事柄を正しく認識し、それをもとに思考する力、適切に表現する力を育てる。
また、その前提となる、基本的な概念や原理・法則の体系的な理解に希求し、主体的に取り組む姿勢を身につける。

授業の進め方・学習方法

基礎の確認・応用に関わる手法については教科書を活用して講義形式で行う。
また、演習時間の中で、より高いステージに立つために必要なことを考えさせ、継続的な努力の意識づけを行う。
理解を深めるために、グループワークを利用することもある。

授業スケジュール

1学期	数Ⅱ 第3章 三角関数 第1節 一般角の三角関数 第2節 三角関数の加法定理
1学期中間試験	
1学期	第4章 指数関数と対数関数 第1節 指数と指数関数 第2節 対数と対数関数
1学期期末試験	
2学期	第5章 微分と積分 第1節 微分係数と導関数 第2節 導関数の応用
2学期中間試験	
2学期	第5章 微分と積分 第3節 積分 高校数学の復習
2学期期末試験	
3学期	高校数学の復習
学年末試験	

成績評価方法

種別	割合(%)	評価基準など
定期試験	80	
レポート	0~20	
小テストなど	0~20	授業内容の定着度確認のための小テスト、試験範囲における基本事項の確認のための プレコン等を実施。
授業での取り組み	0~20	やり直しの提出も加味し、学習姿勢を評価とする。

教科書・教材

書名	出版社	備考
深進 数学Ⅱ	啓林館	教科書
アドバンスα	啓林館	問題集

参考書

書名	著者	出版社	備考
FocusGold数Ⅱ		啓林館	

担当者からのアドバイス

自ら読み、自ら理解したことが正しいのかを授業で確認していきましょう。
「正しさ」を積み重ねることで、数学の土台が固まっていきます。
少しだけ抽象的なことが増えますが、継続的に取り組むことで新しい概念にも慣れていきます。
この一年で、さらに成長しましょう！

教科	科目	コース	授業時間	担当者
数学	数学B	SG・文系	3	高橋・田中

到達目標

基本的な知識の習得を図り、それを利用・活用する力を養成し、数学的思考力を身に付ける

授業の進め方・学習方法

予習を前提にし、授業を進める。授業では理解の確認および演習をおこない、理解の徹底をはかる。
問題集で演習し、得点力を高める。

授業スケジュール

1学期	・第1章 数列 第1節 等差数列・等比数列 第2節 いろいろな数列	1学期中間試験
1学期	・第1章 数列 第3節 漸化式と数学的帰納法 演習	1学期期末試験
2学期	数学C ・第1章 ベクトル 第1節 ベクトルとその演算 第2節 ベクトルと図形	2学期中間試験
2学期	数学C ・第1章 ベクトル 第3節 空間ベクトル	2学期期末試験
3学期	・入試演習	学年末試験

成績評価方法

種別	割合(%)	評価基準など
定期試験	80	
レポート	0~20	
小テストなど	0~20	
授業での取り組み	0~20	定期試験の割合が80%、課題試験の結果・小テストの結果・宿題の提出状況の割合が20%、合わせて100%として評価する。

教科書・教材

書名	出版社	備考
詳説 数学B	啓林館	教科書
深進 数学C	啓林館	教科書
アドバンストプラス数学B+C	啓林館	問題集
Focus Gold 4th Editionon 数学B+C	啓林館	副教材

担当者からのアドバイス

予習をして、内容を確認して授業に臨んでください。難易度もあがりますので、日々の復習を大切にして問題集・参考書の学習を計画的に進めてください。

教科	科目	コース	授業時間	担当者
数学	数学Ⅱ	SG・理系	5	堀内

到達目標

数学の解法を美しいと思える感性を養い、正しく思考し、それを的確に表現できる力を身に付ける。
基本的な概念や原理・法則を体系的に理解することを前提に、主体的に授業に参加する姿勢を養成する。

授業の進め方・学習方法

講義と演習の時間を確保し、学習方法を身に付けていく。
また、同じ講義を受ける仲間と問題に対するアプローチや理解を深めていく。

授業スケジュール

1学期	第3章 三角関数 第1節 一般角の三角関数 第2節 三角関数の加法定理
1学期中間試験	
1学期	第4章 指数関数と対数関数 第1節 指数と指数関数 第2節 対数と対数関数
1学期期末試験	
2学期	第5章 微分と積分 第1節 微分係数と導関数 第2節 導関数の応用 第3節 積分
2学期中間試験	
2学期	第4章 関数とその極限 第1節 分数関数と無理関数 第2節 関数の極限と連続性
2学期期末試験	
3学期	第5章 微分法 第1節 微分と導関数 第2節 いろいろな関数の導関数 第3節 導関数の応用 第4節 いろいろな応用
学年末試験	

成績評価方法

種別	割合(%)	評価基準など
定期試験	80	
レポート	0~20	
小テストなど	0~20	
授業での取り組み	0~20	定期試験の割合が80%、課題試験の結果・小テストの結果・宿題の提出状況の割合が20%、合わせて100%として評価する。

教科書・教材

書名	出版社	備考
深進 数学Ⅱ	啓林館	
深進 数学Ⅲ	啓林館	
アドバンスプラス 数学Ⅱ+B	啓林館	
アドバンスプラス 数学Ⅲ	啓林館	
FocusGold 数学Ⅱ+B	啓林館	
	啓林館	

参考書

書名	著者	出版社	備考

担当者からのアドバイス

数学の問題を解くとき、答えにたどり着くための解法は何通りあるだろうか。広尾学園小石川の授業では、他の解法や考え方を発見して共有し、一番美しい解法はどれかを考える時間があります。この問い合わせはありません。数学の解法を美しいと思える感性を養っていきます。また、基本的な概念や原理・法則を体系的に理解することを前提とし、主体的に授業に参加することを求めます。上限は決めていないので、どんどん学んでいきましょう。

教科	科目	コース	授業時間	担当者
数学	数学B	SG・理系	3	堀内

到達目標

基本的な知識の習得を図り、それを利用・活用する力を養成し、数学的思考力を身に付ける

授業の進め方・学習方法

予習を前提にし、授業を進める。授業では理解の確認および演習をおこない、理解の徹底をはかる
授業中に伝える問題集の演習およびFocus Goldで演習し、得点力を高める

授業スケジュール

1学期	・第1章 数列 第1節 等差数列・等比数列 第2節 いろいろな数列
1学期中間試験	
1学期	・第1章 数列 第3節 漸化式と数学的帰納法 演習
1学期期末試験	
2学期	・数学III 第3章 数列の極限 第1節 無限数列 第2節 無限級数
2学期中間試験	
2学期	・数学III 第2章 平面上の曲線 第1節 2次曲線 第2節 媒介変数と極座標
2学期期末試験	
3学期	・数学III 第1章 複素数平面 第1節 複素数平面 第2節 平面図形と複素数
学年末試験	

成績評価方法

種別	割合(%)	評価基準など
定期試験	80	
レポート	0~20	
小テストなど	0~20	
授業での取り組み	0~20	定期試験の割合が80%、課題試験の結果・小テストの結果・宿題の提出状況の割合が20%、合わせて100%として評価する。

教科書・教材

書名	出版社	備考
深進 数学B	啓林館	教科書
深進 数学III	啓林館	教科書
アドバンストプラス数学 II+B	啓林館	問題集
アドバンストプラス数学 III	啓林館	問題集
Focus Gold 4th Editionon 数学 II+B	啓林館	副教材
Focus Gold 4th Editionon 数学III	啓林館	副教材

参考書

書名	著者	出版社	備考

担当者からのアドバイス

数学の問題を解くとき、答えにたどり着くための解法は何通りあるだろうか。広尾学園小石川の授業では、他の解法や考え方を発見して共有し、一番美しい解法はどれかを考える時間があります。この問いに正解はありません。数学の解法を美しいと思える感性を養っていきます。また、基本的な概念や原理・法則を体系的に理解することを前提とし、主体的に授業に参加することを求めます。上限は決めていないので、どんどん学んでいきましょう。

教科	科目	コース	授業時間	担当者
理科	化学	SG	3	吉屋

到達目標

本授業の目標は、化学基礎で学習した概念をもとに「高等学校の化学」で扱う総合的な概念を体系的に理解することである。
理論化学分野では、物質の状態変化、気体、溶液の性質について理解するとともに、日常生活や社会と関連づけて考察できる能力を養う。
また、化学変化に伴うエネルギーの出入りや化学平衡をもとに、化学反応に関する概念や法則を理解する。
有機化学分野では、その性質や反応を探究して理解するとともに、日常生活や社会と関連づけて考察できる能力を養う。

授業の進め方・学習方法

授業は大学入試を意識して展開します。
教科書の内容に沿って進めますが、教科書の内容以外でも必要とされる知識・計算方法などを加えていきます。
授業進度に併せてしっかりと復習し、疑問点はそのままにせずその都度調べるようにして下さい。

授業スケジュール

1学期	第1部 物質の状態 1章 固体の構造 2章 物質の状態変化 3章 気体の性質	1学期中間試験
	第1部 物質の状態 4章 溶液の性質 第2部 物質の変化と平衡 2章 化学反応と電気エネルギー	1学期期末試験
2学期中間試験		
2学期	第2部 物質の変化と平衡 3章 反応速度 4章 化学平衡 第4部 有機化合物 1章 有機化合物の特徴と分類	2学期期末試験
	第4部 有機化合物 2章 脂肪族炭化水素 3章 酸素を含む脂肪族化合物	2学期中間試験
2学期期末試験		
3学期	第4部 有機化合物 4章 芳香族化合物 第5部 高分子化合物	学年末試験

成績評価方法

種別	割合(%)	評価基準など
定期試験	80	定期考査の結果を主として、授業の取り組みや小テストの結果を加味する。
レポート	0~20	
小テストなど	0~20	
授業での取り組み	0~20	

教科書・教材

書名	出版社	備考
高等学校 化学	啓林館	

参考書

書名	著者	出版社	備考

担当者からのアドバイス

高校2年の化学は大学受験を意識した授業となっていきます。授業展開にしっかりとついていくよう、高1の内容も含め自学習を大切にして下さい。
暗記に頼ることなく、化学事象の原理を丁寧に追究することを心掛けて下さい。

教科	科目	コース	授業時間	担当者
理科	物理基礎	SG	4	佐藤

到達目標
・物理を通して、帰納的・演繹的思考力を身につける。身につけたその力は、どの分野に進むにしても、だからも奪われない一生の財産となるでしょう。
・力学、熱力学、波動の原理や法則を用いて、特定の実験結果を予測したり説明できるようになる。大学入試の基礎～標準レベルの問題(力学、熱力学、波動分野)を自力で解けるようになる。

授業の進め方・学習方法
・物理基礎では「力学」、「熱力学」、「波動」について学びます。
・基本的に、 ①板書による講義により、物理理論の重要な事項を伝えます。適宜、法則を発見するに至る帰納的思考や演繹的思考について伝えます。 ②問題集を用いて、物理理論の重要な事項を使う練習をすることによって、思考力を養います。 適宜、 ③演示実験により、物理理論と現実との関わりについて説明します。
※ 下記の授業スケジュールは進度によって変更する可能性があります。

授業スケジュール	
1学期	第1編 力と運動 (教科書「総合物理」上巻) 第1章 運動の表し方 1. 速度 2. 加速度 3. 落体の運動(水平投射・斜方投射含む) 第2章 運動の法則 1. 力とそれはたらき 2. 力のりあいとその運動 3. 運動の法則 1学期中期試験
1学期	第1編 力と運動(教科書「総合物理」上巻) 第2章 運動の法則 4. 摩擦を受ける運動 5. 液体や気体から受ける力 6. 固体にかかる力のつり合い 第3章 仕事と力学的エネルギー 1. 仕事 2. 運動エネルギー 3. 位置エネルギー 4. 力学的エネルギーの保存 1学期期末試験
2学期	第1編 力と運動(教科書「総合物理」上巻) 第4章 運動量の保存 1. 運動量と力積 2. 運動量保存則 3. 反発係数 第5章 円運動と万有引力 1. 等速円運動 2. 惯性力 3. 単振動 4. 万有引力 2学期中期試験
2学期	第2編 热と気体(教科書「総合物理」上巻) 第1章 热と物質 1. 热と热量 2. 热と物質の状態 3. 热と仕事 第2章 気体のエネルギーと状態変化 1. 気体の法則 2. 気体分子の運動 3. 気体の状態変化 4. 不可逆変化と熱機関 2学期期末試験
3学期	第3編 波(教科書「総合物理」下巻) 第1章 波の性質 1. 波と媒質の運動 2. 波の伝わり方 第2章 音 1. 音の性質 2. 発音体の振動と共振・共鳴 3. 音のドップラー効果 学年末試験

成績評価方法		
種別	割合(%)	評価基準など
定期試験	80	
レポート	0~20	
小テストなど	0~20	平常点は、授業態度、課題の提出状況などから算出する。
授業での取り組み	0~20	

教科書・教材			
書名	出版社	備考	
総合物理1・2	数研出版		
物理基礎	数研出版		
新課程 リードa物理基礎	数研出版		
新課程 リードa物理	数研出版		

参考書			
書名	著者	出版社	備考

担当者からのアドバイス			
小説を読むと、小説を読まなければ感じることのできないような感情をもつことができるのと似ていて、物理を学ぶと、物理を学ばなければ決して考えないことをることができます。			
また、この世に法則がありそうだということや、この世が、少数の原理に従っているかもしれないということを知ることは、それ自体面白いことです。			
物理を学ぶことを通じて、思考力を向上させたり、成長の喜びとともに感じる事が出来れば幸いです。 よろしくお願ひします。			

教科	科目	コース	授業時間	担当者
理科	生物基礎	SG	4	木津

到達目標
生物学は、生命現象が「どのようにして」、「何のために」起こるのかを探究し、説明する学問です。その学問の基礎を学ぶために、以下の到達目標を設けます。
・生物や生命現象に対する関心や探究心を身につける。
・生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深める。
・生物学的な考え方、考え方を養う。
・身に付いた知識を活用し、自らの考えを表現する力を身に付ける。
・私大、国公立大2次試験の問題に対応できる力を身につける。

授業の進め方・学習方法
授業はスライドを中心に進めていきます。スライドは共有しますが、ノートを取るなどして自分でまとめるよう心掛けて下さい。授業内容に追従した演習問題(大学入試問題等)を解き、理解を深めていきます。積極的に挑戦するようにして下さい。

授業スケジュール	
1学期	教科書:第一学習社(改訂生物基礎・改訂生物) 【生物基礎】 第1章 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性 第2章 遺伝子とその働き 1. 遺伝子の本体の構造 2. 遺伝情報の複製と分配 【生物】 第1章 細胞と分子 1. 生体物質と細胞 2. 細胞膜の働きとタンパク質 3. さまざまなタンパク質の働き
	1学期中期試験
1学期	教科書:第一学習社(改訂生物基礎・改訂生物) 【生物基礎】 第2章 遺伝子とその働き 3. 遺伝情報とタンパク質の合成 【生物】 第3章 遺伝情報の発現 1. 遺伝情報とその発現 2. 遺伝子の発現調節 3. バイオテクノロジー
	1学期期末試験
2学期	教科書:第一学習社(改訂生物基礎・改訂生物) 【生物基礎】 第3章 生物の体内環境 1. 体液とその働き 2. 体内環境の維持のしくみ 3. 生体防御
	2学期中期試験
2学期	教科書:第一学習社(改訂生物基礎・改訂生物) 【生物基礎】 第1章 生物の特徴 2. 細胞とエネルギー 【生物】 第2章 代謝 1. 代謝とエネルギー 2. 炭酸同化 3. 硝素同化 4. 異化
	2学期期末試験
3学期	教科書:第一学習社(改訂生物基礎・改訂生物) 【生物基礎】 第4章 バイオームの多様性と分布 1. 植生と遷移 2. バイオームとその分布 第5章 生態系とその保全 1. 生態系 2. 生態系のバランスと保全 【生物】 第6章 生物群集と生態系 2. 生態系の物質生産 3. 生態系と生物多様性
	学年末試験

成績評価方法		
種別	割合(%)	評価基準など
定期試験	80	
レポート	0~20	
小テストなど	0~20	定期試験の結果を中心に、レポート、授業への取り組みなどを総合的に評価します。
授業での取り組み	0~20	

教科書・教材			
書名	出版社	備考	
高等学校 改訂 生物基礎	第一学習社		
高等学校 改訂 生物	第一学習社		
リードα 生物基礎	教研出版		
リードα 生物	教研出版		

参考書			
書名	著者	出版社	備考

担当者からのアドバイス			
知識の詰め込みだけでなく、原理現象を理解して進めていきましょう。自分で考えたこと、理解したことを正確に言語化していくように進めていきたいと思います。たくさんお話しながら楽しい生物の世界を堪能しましょう！			

教科	科目	コース	授業時間	担当者
理科	地学基礎	SG・文系	2	田仲

到達目標
宇宙から地球の内部構造にわたる地学基礎の基本事項を定着させる。 共通テスト地学基礎で目標とする点数を取るために基礎力を養成する。

授業の進め方・学習方法
プリントやスライドを用いて教科書の内容に沿って進めます。 日々授業で学んだ内容の復習に重点をおき、基本的な暗記項目は確實にして下さい。

授業スケジュール	
1学期	第1部 固体地球とその変動 第1章 地球 1. 地球の概観 2. 地球の内部構造 第2章 活動する地球 1. フレートテクニクスと地球の活動 2. 地震
	1学期中間試験は実施しない
1学期	第1部 固体地球とその変動 第2章 活動する地球 3. 火山活動と火成岩の形成 第2部 移り変わる地球 第1章 地球史の読み方 1. 堆積岩とその形成 2. 地層と地質構造 3. 地球の歴史の区分と化石
	1学期期末試験
2学期	第2部 移り変わる地球 第2章 地球と生命の進化 1. 先カンブリア時代 2. 顯生代 第3部 大気と海洋 第1章 大気の構造 1. 大気圏 2. 水と気象 第2章 太陽放射と大気・海水の運動 1. 地球のエネルギー収支 2. 大気の大循環
	2学期中間試験は実施しない
2学期	第3部 大気と海洋 第2章 太陽放射と大気・海水の運動 3. 海水の循環 第3章 日本の天気 1. 日本の位置 2. 冬から春の天気 3. 夏から秋の天気 第5部 自然と共生 1. 地球環境と人類 2. 火山・地震災害と社会 3. 気象災害と社会 4. 人間生活と地球環境の変化
	2学期期末試験
3学期	第4部 宇宙の構成 第1章 太陽系と太陽 1. 太陽系の天体 2. 太陽系の誕生 3. 太陽 第2章 恒星としての太陽の進化 1. 太陽と恒星 2. 太陽の誕生と進化 第3章 銀河系と宇宙 1. 銀河系とまわりの銀河 2. 宇宙の姿
	学年末試験

成績評価方法		
種別	割合(%)	評価基準など
定期試験	80	
レポート	0~20	
小テストなど	0~20	定期考査の結果を主として、レポート、課題提出や授業への取り組み、小テストの結果を加味して総合的に評価します。
授業での取り組み	0~20	

教科書・教材			
書名	出版社	備考	
地学基礎 改訂版	啓林館		

参考書			
書名	著者	出版社	備考

担当者からのアドバイス			
宇宙誕生から地球内部まで内容は壮大なスケールからのスタートとなります。一つ一つは地震や火山活動、気象や環境変化といった私たちの日常の中にある深い内容になっています。まだまだ謎が多い地球の神秘にふれ、教養としての知識を身につけながら興味をもって楽しみながら学習して下さい。			

教科	科目	コース	授業時間	担当者
英語	英コミュⅡ	SG	2	秋吉

到達目標

- ・大学入試で出題された長文を、ディスコーススマーカーに注目しながら論理展開の流れを理解し、筆者の意図を読み取ることができる読解力・速読力を身につける。
- ・自分の持っている語彙の知識を用いて未知の単語・表現が出てきたときに類推しながら読み進められる語彙力をつける。
- ・問題演習を通して、問い合わせ的に答えられる力をつける。
- ・様々なテーマの文章を読み、背景知識を一般教養として身につける。

授業の進め方・学習方法

「背景知識や一般知識を身につける」「意見を述べる力をつける」
 テキストのテーマに基づく新聞記事やその他文章を読む
 教科書を読み、その時々に決められたアクティビティーを行う
 予習ノートで問題を解く

授業スケジュール

1学期	Element Ⅱ Lesson1-2
1学期中間試験	
1学期	Element Ⅱ Lesson3-4
1学期期末試験	
2学期	Element Ⅱ Lesson5-6
2学期中間試験	
2学期	Element Ⅱ Lesson7-8
2学期期末試験	
3学期	Element Ⅱ Lesson9-10
学年末試験	

成績評価方法

種別	割合(%)	評価基準など
定期試験	80	
レポート		
小テストなど	20	定期試験 および小テスト 授業態度 など総合的に評価する
授業での取り組み		

教科書・教材

書名	出版社	備考
Element Ⅱ	啓林館	
夢をかなえるリスニング2	アルク	

参考書

書名	著者	出版社	備考

担当者からのアドバイス

大学入試に必要な読解力、語彙力だけではなく背景知識や一般教養をも身につけていくためにたくさんの文章を読んでいきます。授業での解説や活動だけではなく、自分自身での予習・復習も大切です。受け身ではなく能動的に学習を進めていきましょう。

教科	科目	コース	授業時間	担当者
英語	論理・表現Ⅱ	SG	2	佐野

到達目標

「論理・表現Ⅰ」の学習内容を踏まえ、「話すこと(やり取り)」「話すこと(発表)」「書くこと」を中心とした統合的な言語活動を通して、発信能力を強化するための発展的な活動を行うとともに、論理の構成や展開を工夫して詳しく伝えたり、伝え合ったりすることができる能力を養う。

授業の進め方・学習方法

①Introduction: 教科書 'Topic Introduction' の音声をスクリプトを見ずに聞く。キーワードをメモし、内容把握のために必要な情報を掴む。②Short Lecture & Group Work: 教科書 'Example Bank' を活用し、文法の概要を把握する。その後、グループ内で話し合い、課題を解き、文法事項の理解を図る。③Practice: Workbook を解き、文法の定着を図る。生徒間で学びあい、「自律と共生」の精神を育む。自宅学習では、Workbook、Vintage、Ultimimateを用いる。

授業スケジュール

1学期	Lesson 1 Future Goals Lesson 2 School Life Activity	1学期中間試験
1学期	Lesson 3 Sports Lesson 4 Information Age Activity	1学期期末試験
2学期中間試験		
2学期	Lesson 5 Environmental issues Lesson 6 Cultures Activity	2学期期末試験
2学期期末試験		
3学期	Lesson 7 Language Education Lesson 8 Society Activity	学年末試験

成績評価方法

種別	割合(%)	評価基準など
定期試験	80	
レポート		
小テストなど	20	定期考査だけでなく、「Quick Writing」「文法テスト」「パフォーマンステスト」などを行い、多面的な評価を行なっています。
授業での取り組み		

教科書・教材

書名	出版社	備考
Vision Quest II English Logic and Expression Ace	啓林館	
Vision Quest II English Logic and Expression Workbook	啓林館	
Vintage 英文法・語法 3rd Edition	いいいすな書店	

参考書

書名	著者	出版社	備考

担当者からのアドバイス

生徒間の学びあいを中心に授業を進めていくため、主体的な学習態度が必須である。生徒は、授業の中で常に問題意識を持つように心がけ、課題の解決のために他者と協力して学ぶ習慣を身に着けるようにする。宿題はworkbook中心になるが、期限内に提出するために、計画性を持つことが大事である。